

2022年1月27日
NPO法人 大地の郷
職業指導員 山口孝徳

障害者農業参入チャレンジ事業参加による工賃向上の取組の工夫 ～失敗を糧に～

① 当施設紹介 ～NPO 法人大地の郷～

障害福祉サービス事業就労継続支援 B 型事業所。定員 30 名のうち、10 名の利用者が農作業班に所属している。農作業班スタッフは、3~4 名。2008 年より、吉見町にある約 1 町歩の畑に多品目の野菜を育てている。

② 各年別たまねぎのデータ表

	西暦（年）	総収量(キ)	特定出荷量(キ)	面積(m ²)	総売上（円）
H27	2015年	1221	75	1500	76000
H28	2016年	2000	800	1552	112000
H29	2017年	6700	6041	1552	540000
H30	2018年	6050	5077	1500	400000
R1	2019年	4600	2815	1500	298000
R2	2020年	1439	846	1200	111000
R3	2021年	1500	650	1200	117000

③ 各年別の取組について

<2015 年>

本事業に初参加。コンテナ・肥料・ビニールマルチ・たまねぎ苗・補助人員 5 名を農林公社より提供して頂く。土地の問題（耕作放棄地）と管理不足で、雑草に覆われてしまい、小粒たまねぎばかりで、ほとんど規格外となってしまった。特定出荷先の松屋フーズ（45 円/キ）には 75 キしか出せず、残りは自家販売した。収穫後、草に覆われてしまったビニールマルチの回収が困難で、トラクターで耕運したため、粉々になったマルチの回収がさらに困難となった。また、施した肥料のにおいにより、近所から苦情を受け、トラブルとなる。

<2016 年>

今回より、マルチ敷の機械を導入。ビニールマルチ使用。苗は、NoSide より購入。手

植えのため、時間が足りず、近所の方3名にパートとして手伝ってもらう。マルチの両脇の土かけが甘く、強風で飛ばされる。4~5月に赤さび病が広がる。800キを松屋フーズ(45円/キ)に出荷するが、パート3名代等に対して、低単価のため、赤字。使用後に回収した大量のビニールマルチの処理代にも困る。

<2017年>

今回より、マルチをビニールから、土に還るバイオマルチに変える。分解性のため、劣化が早く、破れやすい。強風でマルチが飛ばされないよう、マルチの上に、土をかぶせることで対応。特定出荷先が、松屋フーズ(45円/キ)からマルト商事(72円/キ)に移行させてもらい、やる気が出る。規定内の大きさのたまねぎをおおむね育てることが出来、6041キを出荷する。

<2018年>

今回より、苗植え機を導入する。この機械の扱い方、対応する好条件の畑の整備のしかたが分からず、ほとんどの苗の植付けを手直しする。好条件の整備として、①植え付け前に苗の土を適度に湿らせておく。(機械から苗が落下しやすいように)(苗をセルトレイから抜き取りやすいように)②畑の土をふかふかに耕運し、高畝にする。(落下した苗が土に深く埋まるように)株間が狭いかと思われたが、適度に大きく育ってくれた。無穴マルチに苗を差し込む機械のため、根元からの草は抑えられたが、雨が入りにくかった。

<2019年>

同時期に、並行して栽培していた、単価の高いにんにく栽培へ、力をシフト。たまねぎ栽培面積を少し減らす。今回、使用した苗の品種が早生であるのに、遅れて収穫してしまった。暖冬の影響もあり、分球が大発生。必要な時期に、雨が少なく、肥料分が解けなかったことも一因かと思われる。植付けと収穫のタイミングを誤ってしまった。出荷先のマルト商事より、選別不十分のため、注意を受ける。価格を下げて、引き取っていただく。

<2020年>

前回、不良品が多かったため、良いたまねぎを育てるべく、たまねぎ栽培面積を減らした。水不足対策として、井戸水から適宜、灌水を行う。通路の除草対策として、管理機が入れる幅にして、適宜、通路を浅く耕運する。

<2021年>

今回より、播種機を導入し、種から苗作りを試みる。種が適切に一粒ずつ入らず、ひとつの苗に数本出てしまった。植えてから、一本立てにする手間となる。使用した苗用の土が固まらず、土の重みがなくなり、苗植え機から適切に苗が落ちなかった。そのため、植え付けが浅くなり、根付きが悪かった。さらに記録的な少雨のため、苗が育たなかった。このような悪条件が重なり、小玉が多くなってしまった。ただ、収穫時、3日間しっかりと天日干しが出来たので、状態よく保存が出来た。

④ 今後の反省・改善点

今後の課題は、主に強風対策。まだ苗が小さい時期に、強風が吹き、せっかくのマルチがめくれてしまうと、戻すことが出来ず、めくれたマルチを取り除いている。めくれる前の対策が必要。通路を広く取り、片上げ管理機でマルチの両肩と中央を土で覆い、飛ばされないようにしたい。

⑤ まとめ

本事業に参加して7年の間に、たまねぎ栽培に取り組むための資材や機器を少しずつ導入し、たくさんの失敗や気づきを経験させて頂きながら、なんとか軌道に乗せることが出来つつあります。毎年、問題や課題が見つかり、その失敗を糧に、一緒に働く利用者やスタッフも学び合い、成長しながら、反省・改善を積み重ねてきました。天候や環境、苗の状態、タイミング、乾燥、保存、販売ルートなど、様々な要因が絡み合うため、この栽培方法がベストという答えになかなか辿り着けません。それでも、どういう状況になっても対応できるよう、これまでの経験を活かし、また新たな知識を得る努力を惜しむことなく、本事業をステップに、さらなる工賃向上を目指し、今後も取り組んでいく所存です。